

巻末資料

(1) 実施計画

平成 27 年大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務  
実施計画

一般財団法人 自然環境研究センター



2) 捕獲目標頭数：84 頭

6 月末までにできるだけ多く捕獲できるよう努める。また、捕獲頭数が 84 頭を超えた場合は、134 頭に達するまで捕獲に努める。

3) 捕獲手法

4 月中旬から実施する。餌（ヘイキューブ、醤油等）を用いた誘引を併用し、くくりわな（30 基程度）による捕獲を行う。わなを設置している期間は、1 日 1 回程度見回りを行うこととし、捕獲効率が低い場合は、設置場所を変える等の措置を講じる。

くくりわなの種類は OM-30 改（オリモ製作所）を主として用いるが、状況に応じて他種のくくりわなも用いる。（ただし、効率的な捕獲が困難な状況が生じた場合は、担当官と協議の上、他の方法での捕獲を行う。）

捕獲が確認された場合、原則として注射器もしくは吹き矢により、日本獣医師会が定めるガイドラインに則り、麻酔薬（塩酸ケタミンやペントバルビタールナトリウム等）の過剰投与による安楽死を行い、動物へのストレスを最小限に留める。速やかな搬出が可能な場合に限り、環境省と上北山村獣肉利活用協議会協定書の範囲内で、上北山村獣肉利活用協議会に引き渡す。必要な部位を採取した後の残滓は、吉野三町村クリーンセンターにて適切な処理を行う。

なお、ツキノワグマを錯誤捕獲した場合は、安全に配慮して可能な限り放逐する。

手 法	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
くくりわな	←			---	---	---	---	---	→

図 2 個体数調整実施スケジュール

60 日程度、観光客の多い時期（GW、盆、紅葉時期等はなるべく避ける）  
6 月末までにできる限り捕獲するよう努める

(2) 捕獲個体のモニタリング調査

「大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第 3 期）」に基づき、捕獲個体の外部計測や性別・年齢区分・妊娠状況の確認を行うとともに、歯及び腎臓等を採取する。

腎臓については重量を計測し、内臓脂肪を示す指標として代表的なライニー式腎脂肪指数を用いて、捕獲個体の栄養状態を把握する。栄養状態は季節、性により変化するため、これまで蓄積されてきたデータとの照合により、捕獲個体の栄養状態の変化を判断する。

歯については、採取年月日や採取個体の性別等必要事項を照合できるタグを同封し、密閉容器に入れ、環境省吉野自然保護官事務所に提出する。

(3) ライトセンサスによるニホンジカの生息状況調査

10 月頃に 1 回、4 ルートにおいてライトセンサスを行う（図 3、4）。片側 100m（両側

200m) 程度の観察幅を対象とし、ルート1～3は時速2km程度(徒歩)、ルート4は時速10km程度(自動車利用)の速度で、1ルートにつき2回の反復調査を行う。天候の悪い日は極力避けて実施する。

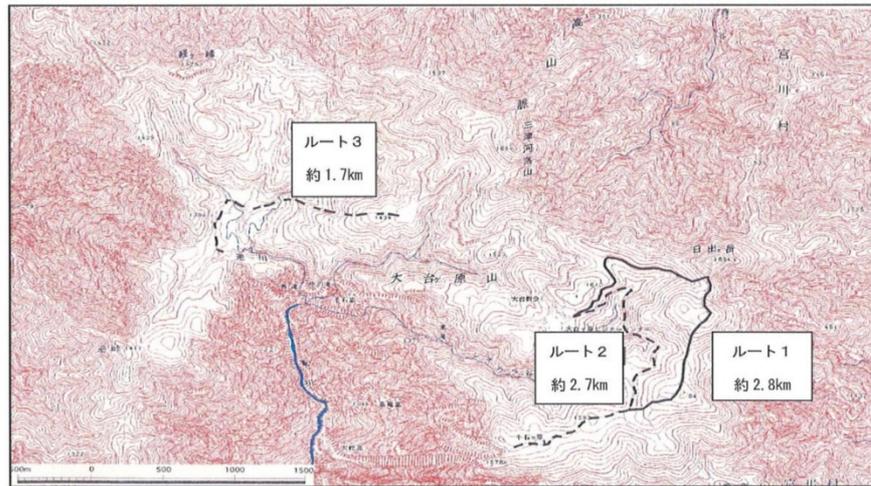


図3 ライトセンサス位置図

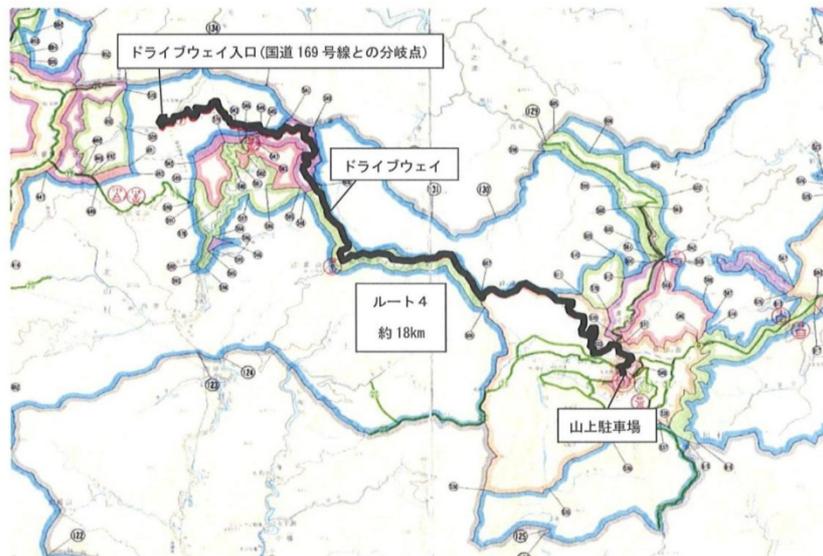


図4 ライトセンサス位置図

#### (4) カメラトラップ法によるニホンジカの生息状況調査

大台ヶ原に設置されている自動撮影カメラ (Lt1-6210MC 850NM LED グロータイプ) 30 基について、4 月・6 月・9 月・12 月頃に点検し、記録メディアと電池の交換等を行う。また、必要に応じて自動撮影カメラ設置位置の変更、調整を行う。得られた撮影データから以下の作業を行う。

##### ① 季節別生息密度の把握

得られた記録を月毎に区分し、Rowcliffe et al. (2008: 個体識別を必要としない自動撮影カメラによる生息密度推定) の方法に基づき月別生息密度を算出する。

##### ② 糞粒調査結果との比較

10 月の自動撮影カメラによる生息密度結果と、別業務で行われる生息密度調査 (糞粒調査) の結果と比較し、カメラトラップ法の有効性について検討を行う。

##### ③ 地点別利用強度の把握

地点別の撮影頻度を基に、地点別・月別 (もしくは季節別) の利用強度を把握する可能性について検討を行う。

##### ④ 捕獲候補地の抽出

高い捕獲効率で捕獲できることが期待される地域及びメス生息数の多い地域を抽出し、図示する。

##### ⑤ ニホンジカ以外の野生動物のデータ整理

ニホンジカ以外の野生動物について、種別・地点別に撮影頻度を整理する。

#### (5) 年間捕獲目標頭数の設定

別業務で行われる生息密度調査 (糞粒調査) によって得られた生息密度から推定生息数を算出し、次年度に実施するニホンジカ個体数調整の年間捕獲目標頭数を推移行列シミュレーションによって決定する。

なお、シミュレーションは、ニホンジカの捕獲対象地域への移出入を考慮し、有効捕獲面積を考慮した地域 (捕獲対象地域に平均行動圏面積の 50% を加えた地域) 23.24km<sup>2</sup> を対象に、目標生息密度が平成 28 年度までに 5 頭/km<sup>2</sup> となるよう実施する (図 5)。

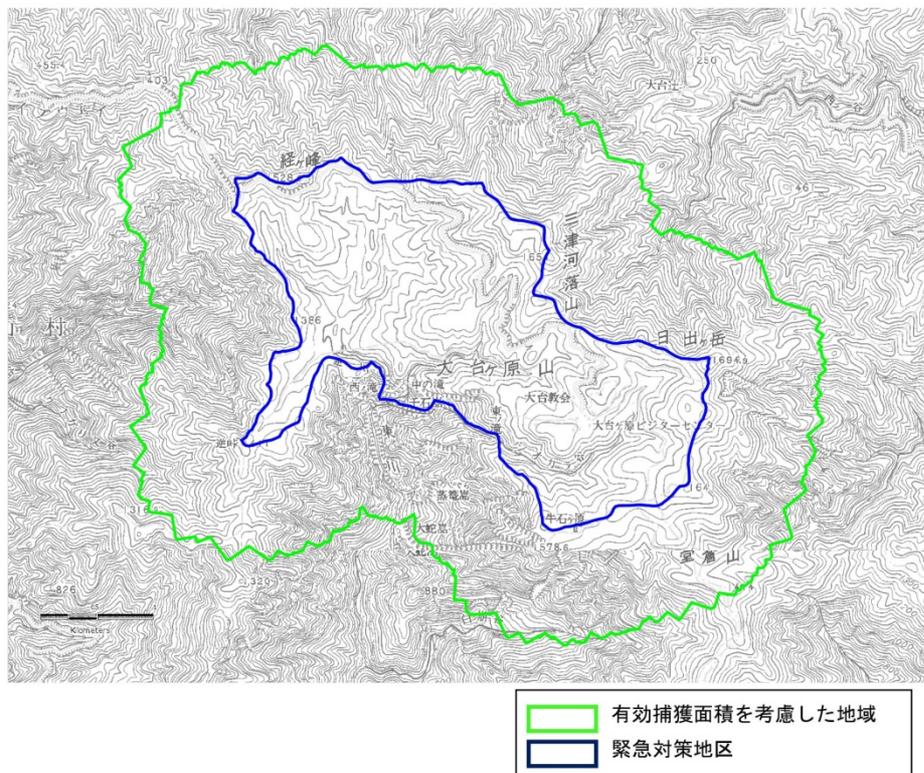


図5 シミュレーション対象区域図

(6) 大台ヶ原自然再生推進委員会等への報告

本業務の実施状況及び結果については、別業務にて開催・運営される大台ヶ原自然再生推進委員会・ニホンジカ保護管理ワーキンググループに5回程度出席して必要事項を報告し、必要な助言を受ける。

4. 報告書の作成

「(1)～(6)」の内容をとりまとめ、報告書を作成する。

5. 実施体制

本業務の執行体制を以下に示す。なお、組織として、当センター第1研究部および鳥獣被害防止部が適宜、後方支援を行う。

平成27年度大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務報告書

平成28（2016）年3月

業務発注者 近畿地方環境事務所  
〒540-6591 大阪府大阪市中央区大手前1丁目7番31号  
大阪マーチャンダイズマート（OMM）ビル8階  
TEL 06(4792)0706

業務請負者 一般財団法人 自然環境研究センター  
〒130-8606 東京都墨田区江東橋3丁目3番7号  
TEL 03(6659)6310

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。